

新しいもの好きが つかむ未来

日本アイ・ピー・エム株式会社
インダストリー事業本部
ホンダグループ担当事業部
ホンダ・グローバルソリューション営業部
クライアントテクニカルアドバイザー

稲吉 尚樹

Naoki Inayoshi

初めてコンピューターに触れた日を、昨日のこのように覚えている。地元のデパートの電気製品コーナーに、コモドール社のパーソナル・コンピューター「PET 2001」が展示されたのは1977年のことだった。当時の価格は、およそ20万円。中学生の稲吉尚樹には、とても手が出る品ではなかった。それでも、ディスプレイとキーボードが付いたコンピューターを初めて見て衝撃を受けたという稲吉は、それから一カ月の間、日曜日になると友達と一緒にデパートを訪れ、開店から閉店までPET 2001に触っていた。

「PET 2001のマニュアルを読むと、どうやらBASICというプログラム言語が使えるということが分かりました。そこでBASICを勉強して、朝から晩までPET 2001を自分たちで専有し、素因数分解を行うプログラムなどを作っていました。デパートにとっては迷惑だったと思いますが、自分の手でプログラムを組むという楽しさにすっかり没頭してしまったのです」

デパートでPET 2001に出会い「未来に触れた気がした」という稲吉は、その後もコンピューターでプログラムを組むことに夢中になった。大学時代になると、当時、日本で発行された唯一のC言語の入門書であるブライアン・カーニハンとデニス・リッチーの共著『プログラミング言語C』を読みながら、C言語で自動組版のプログラムを組むアルバイトに明け暮れた。しかし一方で、物理

学の道に進むという夢も稲吉は追いかけていた。NHKの科学番組で特集されていたクォークの魅力の虜になり、大学では物理学科を専攻している。

「コンピューターと同様、最先端のものを追いかけることが好きで、物理学を専攻しました。しかし、物理学はすべての物の根源を探ろうとしますが、たとえ一冊の本の材質を素粒子のレベルまで調べたとしても、その本に書かれている文章の価値は分かりません。素材とコンテンツの、どちらが本当に価値を持つのだろうと考え、世の中に対しての影響度が大きいコンピューターの道を選んだのです」

大学を卒業し、日本IBMに入社したのは、PET 2001との出会いからちょうど10年後の1987年のことだった。

* * *

稲吉は入社以来、一貫して大手自動車メーカーのシステムを担当している。入社した当時のSEはホストコンピューターを担当するのが常識だったというが、稲吉は学生時代のプログラミングの経験をかわれ、パソコン関係の仕事を入社社員の時点から1人で担当することになる。その後、OS/2を使ったオフィス・システム、GUIを使ったクライアント・サーバーの仕組み、お客様にとって初めてのWebシステム構築やJava開発の標準の確立など、

先進的な取り組みを提案し、実現していった。

「新しい技術を積極的に取り入れていくという文化が特にお客様にあり、新しいものが好きという私の性格とも合い、新しいご提案を次々に行っていました。当然のことながらお客様には独特の企業文化があり、IBMのバックエンドの知識、ノウハウがそのまま通用しない場合も多々あります。お客様担当営業のCR(Client Representative)とともに、技術領域での翻訳、組み立てを行うことで、お客様向けにシステムを調整しながら、さまざまなアプリケーションやWebシステムの開発を行っていました」

顧客のシステム開発が後ろ向きにならないよう気を配って提案を行っている稲吉は説明する。

「時には同じ仕組みをより安いコストで作ろう、という観点ばかりにとらわれてしまうことがあります。しかし、コストを抑えていくだけの縮小再生産を繰り返すと、長い目で見ると、後々身動きがとれなくなっていくことにもつながります。維持と革新のバランスという命題は生物でも見られる普遍的な問題ですが、だからこそ、コストを抑えると同時に、新しいことへの取り組みを組み込んだ提案を常に意識して行っています」

IoT(Internet of Things)の時代を迎え、自動車業界は今後大きな変化に見舞われていく。自動車メーカーのシステムを27年にわたって担当してきた稲吉は、この大きな変化に乗ることの重要性を痛感している。

「これまでの企業内ITの主役は、“企業の中で働く人”であり、いかに効率良く働けるかという視点が中心でした。しかし、これからは違います。IoTの時代には製品そのものの中にITが入り相互につながります。そのときの主役は、ITが組み込まれた製品を実際に使っている“エンドユーザー”なのだと思います。その変化は中学生時代にデパートで触ったパソコンから空想した未来そのものだと思います。だからこそ、その変化をサポートする提案をしていくことが、私の今後の大きなテーマです」

* * *

プライベートでは、ボーイスカウトのリーダーとして高校生たちの指導を行っている。ボーイスカウトで使われる「プロジェクト法」という教育システムには、IBMでの仕事の経験も大きく役立っているという。

「目的、目標を決めて、計画を立てて、実行し、振り返って評価する、まさにプロジェクトそのものです。プロジェクトの概念を高校生に教えるのには苦労します。大人でもプロジェクトはどういうものかを知らない人がたくさんいます。ボーイスカウトで身に付けたことを、子どもたちが将来に役立ててくれたらと考えています」

その傍ら、ロック・クライミングやアイス・クライミングなど、危険を伴うスポーツにもチャレンジ中だ。「仕事でもリスクテイクは恐れない方。だから新しいものが好きなのかもしれません」と稲吉は言う。新しいもの好き、だからこそつかめる未来を、稲吉は笑いながら追いかけている。

「今年はマカオで世界一の高さのバンジージャンプを飛びました。飛んでいる時の自分の顔を写真で見たら、やっぱり笑っていました(笑)」



バンジージャンプやアイス・クライミングなど、危険を伴うことにもチャレンジ。仕事でもリスクを恐れず、新しい提案を組み込むことを恐れない。